



## 成蹊学園ラグビー部創部100周年記念を祝う！！



2023年7月9日（日）渋谷セルリアンタワー東急ホテルにおいて、成蹊学園ラグビー部創部100周年式典が行われました。今を遡る事約4年前の2019年3月、ラグビー部の先輩方から、「2023年成蹊ラグビー100周年事業の責任者をお願いしたい」とのお話を頂き、松本哲実行副委員長、山崎泰嗣副委員長と共にプロジェクトが始まりました。コロナ禍の時期には、斯様なイベントを開催する事自体が憚られる中、無事に式典を終えられた事に安堵しています。

100周年式典の実施にあたっては、「他校にはない印象に残る100周年記念パーティーの開催」を目標に掲げ、成蹊ラグビー部らしいパーティーで参加者全員に楽しんでもらおうという心意気を持って準備作業を進めて来ました。

当日は、天候にも恵まれ、小中高大の現役学生、保護者、OB/OG、ファンクラブ、学園関係者を含むご来賓の方々、総勢750名の参加者迎える大イベントとなりました。ご参加いただいた多くの方々より、「パーティー良かったよ！」と声をかけて頂いた事、本当に感無量の思いでした。その中でも我々が非常に嬉しかった事は、祝辞で多くの方から「成蹊学園ラグビー部100周年、学園一体で行うパーティーは成蹊にしかできない。本当に素晴らしい。」との声を頂戴したことです。目指していた成蹊ラグビーファミリーが一体となったアットホームなパーティーが開催出来たと思っております。

100周年を機に、成蹊ラグークラブ（OB/OG会）としては、現役学生への支援体制を改めて強化していく事に取り組んでおります。成蹊学園の他クラブとの連携も強化しながら進めて行きたいと考えておりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

寄稿 成蹊ラグークラブ常任委員長 松田多聞（98経工卒）

## 準硬式野球部からの活動報告



私たち準硬式野球部は、一昨年に13年ぶりの3部昇格を果たし、3部優勝、そして2部昇格を目標に活動を行っております。3部昇格後の昨年は、春季リーグ3位、秋季リーグ4位。今年の春季リーグは5位と、思うような結果を残すことはできておりませんが、部員一同優勝に向けて練習に励んでおります。今年は、新型コロナウイルスの影響で実施できていなかった合宿を、4年ぶりに行うことができました。更に、多くの新入部員を

迎え、活気に満ち溢れた練習に、手ごたえを感じております。また、7月に福島県で開催された、関東地区連盟が主催するオールスターゲームでは、3部以下の選手で構成される東都Bの代表として二名の部員が選出され、東京六大学選抜や神奈川大学リーグ、東都Aといった強豪チームと対戦し、チームの準優勝に貢献いたしました。夏季休業期間中の練習では、今までの成績を真摯に受け止め、基礎的な部分の重要性を再認識し、努力を重ねて参りました。OB・OGの方々の思いを、現役の部員が継承し、一体となって、これからの秋季リーグ戦、そして関東大会に臨みたいと考えております。今後とも準硬式野球部の応援をどうぞよろしくお願いいたします。



寄稿 準硬式野球部 3年 主務 田中 開

## ゴルフ部 OB 会の活動報告



体育会ゴルフ部 OB 会には主に4つの活動があります。4月の桜まつりに合わせ開催する OB 総会、焼き鳥模擬店を出店し売上を現役の活動費用として支援しています。8月には現役男子の秋季リーグ戦の試合会場での OB と現役の対抗戦。今年は栃木県の芳賀カントリーにて開催し、OB チームは昭和51年卒の大先輩から令和3年卒の若手まで幅広い層の OB7名、現役チームは選手候補の9名が参加し、平均ストロークで僅か0.1の僅差で学生チームが勝利を収めました。9月には現役学生も招いての OB コンペが開催されます。今年も10組40名の盛大な会となります。そして1月には4年生の送別会を兼ねた OB 懇親会を開催します。懇親会の際には卒業生のティーチングプロやゴルフ業界就職者を招き、ゴルフセミナーも開催します。ゴルフは歳を重ねても現役の学生と一緒にプレーすることが出来る数少ない競技。これらの活動を通じ、OB と現役学生の交流を深めております。



今年度はバブル期以来のゴルフブームに乗り、新入部員が26名も入部しました。益々、ゴルフ部、OB 会が発展していきそうです。

寄稿 ゴルフ部 OBOG 会 常任委員長 齋藤 邦治 (96法卒)

## 居合道研修会からの活動報告

**NEW!!**



居合道研修会のここ四年間の主な活動報告をさせていただきます。コロナ禍にも拘らず、学内に於いて週2から3回の通常練習を実行していました。合宿はその期間は当然の事ながら行えず代わりに学内で強化練習を行いました。その成果を試すべく、開催された東日本学生居合道大会、同新人大会、関東学生居合道大会、東京都女子居合道大会、その他、地域での小規模な大会にも、できる範囲で積極的に参加をして来ました。何れの大会に於いて、各部員はベストを尽くしました。

今現在、総勢 19 名の部員が、創部以来、大変お世話になっておる、山崎監督の年心な指導の元に日々、鍛錬を重ねております。

今年は創部 60 周年を記念して、櫛祭初日の 11 月 18 日 15 時から、学内の学生食堂第 2 に於いて、式典を開催致します。今後とも、安全無事に益々の発展を、現役・OB. 一同共に祈念したいと思います。



寄稿 居合道研修会 OB・OG 初代会長 林 一雄（72 経卒）

## アメリカンフットボール部からの活動報告



ようやくコロナの影響もほとんどなくなり、通常通りの部活動ができるようになったのは大変喜ばしいことと感じている。しかし、コロナの影響はまだ残っていると云わざるを得ない。その一例が部員不足だ。新入部員の勧誘活動はコロナ前のようにできるようになったが、思うように新入部員を獲得できていない。これは我が校に限らず、スポーツ推薦を行っている他校にも影響が及んでいる。その一因が高校フットボールの部員減少である。この春に大学 1 年になった者は高校時代はどっぷりとコロナの影響を被っていた世代で、当然部活を思うようにできなかつたと思われる。アメフトの

競技人口は「逆ピラミッド型」となってしまうっており、2022 年度の日本アメリカンフットボール協会加盟チームは大学 191 校に対して高校は 13 都府県 99 校に過ぎない。このように元々の競技人口が少ない高校生を各校が奪い合っている状態で、当然我が校にはなかなか回ってこない。例年高校経験者は 2.3 名、多くても 5 名であったが、今年度は 1 名となっており、合計でプレイヤー 8 名に留まっている。そのような状況でもここ数年、もう少しで 1 部というところまで来ているのは、選手、スタッフ、コーチ陣の努力、創意工夫によるものである。いよいよ 9 月 24 日からリーグ戦が始まる。12 月には悲願の昇格の喜びを現役諸君とともに分かち合いたいと切望している。



寄稿 アメリカンフットボール部 OBOG 会会長 瀧川 尚己（87 文卒）

## 籠球部からの活動報告



体育会籠球部男子は、特別強化指定団体に選出していただき 2 年目となりました。

今年度は、4 年 2 人、3 年 4 人、2 年 5 人、1 年 8 人、マネージャー 8 人の総勢 27 人で活動しています。

昨年度は、目標である 3 部リーグとの入替戦まで進みましたが、惜しくも 3 点差で敗れました。今年度こそは、3 部昇格を目指し、学生達は頑張っています。前半の成績は、5 月のトーナメントでは、1 回戦で上位リーグのチームに敗れ、6 月の四大戦では、惜しくも準優勝という結果でした。

今年度は、外部の専門フィジカルトレーナーを委託して、体力・筋力面での強化を図り、リーグ戦に照準を合わせて練習に取り組んでいます。

また、コロナ対策が緩和され、8月には4年ぶりに栃木県で合宿も行いました。酷暑の中、体調管理を十分にいき事故無く終了し、個人の成長とチームのレベルアップを図りました。1年生が多く入り、ライバル競争も激しくなり、1年生の中から新戦力も出てきていて、良い効果を上げていると聞いております。

集大成である、秋のリーグ戦でこれまでの努力の結集を遺憾なく発揮し、悔いのない戦いをしてほしいと願っています。

寄稿 籠球部（バスケットボール部）OBOG 会会長 関口 大輔（85 経卒）



## 硬式庭球部**女子は4部に昇格！** 男子は3部に昇格に一步及ばず



関東大学テニスリーグは、今年で第77回（女子は59回）となる大会で、体育会硬式庭球部にとっては、ここで上位の成績を残すことが男女ともに最大の目標です。

女子が所属する5部は、35チームが8ブロックに分かれて予選リーグを戦い、その上位24チームで決勝トーナメントを行って、決勝に進んだ2チームが4部との入替戦に臨むという、極めて厳しい仕組みになっています。昨年、決勝トーナメントの準決勝で敗れた成蹊チームは、この悔しさをバネに1年間練習に励み、今シーズンを迎えました。予選リーグの初戦となった東京理科大学戦では、やや固さが見られて、もつれる試合が多くありましたが、4対3（ダブルス1-1、シングルス3-2）で勝利し、その後は伸び伸びとしたプレーで予選ブロックを全勝の1位で通過。決勝トーナメントでも、準決勝で成城大学、決勝で明海大学に快勝し、入替戦でも勝利し、見事4部への復帰を果たしました。

男子は昨年の大会で4部に昇格し、今年は一段上のステージでの戦いに臨みました。東京農業大学との初戦では、日没近くまでに及ぶ大激戦の末、5対4（ダブルス1-2、シングルス4-2）と競り勝ちました。この一戦が弾みとなり、全体で3勝2敗の4部リーグ2位となって、3部との入替戦に進出しました。獨協大学との入替戦は、いずれも接戦だったダブルス3試合で1対2と先行されたことがひびき、2対5（2試合は途中打ち切り）で敗



れ、残念ながら昇格には一步及びませんでした。

男女ともに、試合を重ねるごとに、選手だけでなく応援メンバーやマネージャーを含めてチーム全体の一体感が増し、逞しく成長していく姿に、清々しい気持ちを持ちました。

大学スポーツは1年ごとに選手が入れ替わり、強化が難しい面がありますが、来シーズンのさらなる飛躍に向けて、OBOGもできる限りの応援を継続していきます。

寄稿 成蹊テニス会顧問 江橋治郎（79 法卒）

## 体育会本部から四大戦活動報告



「四大学運動競技大会」通称四大戦は、成蹊大学・武蔵大学・成城大学・学習院大学の四大学が体育会団体で競う正式種目と一般学生による一般種目の合計点で優勝を争う大会です。その四大戦も今年で 74 回を迎えます。前回本学で開催されて以降 3 年間は新型コロナウイルスの影響により、無観客などの縮小開催を強いられてきました。しかし、今年是有観客での開催が決定し、3 年ぶりに本来の四大戦を行うことができるようになりました。四年前の第 70 回大会で、成蹊大学の先輩方が作ってくださった素晴らしい大会を再び同じ場所からスタートすることができることを光栄に思います。実行委員長として諸先輩方が繋いでくださった伝統の襷を来年以降も繋いでいけるよう、より一層努力してまいります。

今年度の四大戦のスローガンは「四重奏 カルテット」です。このスローガンには成蹊大学・武蔵大学・成城大学・学習院大学の四大学の想いの重なり合いがハーモニーを生み、より良い大会になるように、という意味が込められています。第 74 回大会ではコロナ禍からの復活を遂げ

た新たな形の四大学運動競技大会を応援していただけると幸いです。結びになりますが、本大会の開催にあたり、ご支援、ご協力を賜りました全ての皆様に心より御礼申し上げます。

寄稿 四大学運動競技大会実行委員長 伊佐次宏祥（経営 4 年ハンドボール部所属）

## 事務局から連合会移行への総会のご案内

既にご承知の通り「体育会 OBOG 会長連絡協議会」は、連合会への移行総会と位置づけ会員の皆様にその骨格をご説明する運びとなりました。別途詳細はご案内状に記しますが沢山の方の参加をお待ちいたします。

日時 2023年11月5日（日）13:00～17:30

場所 総会 6号館301教室 懇親会 10号館12階ホール

### Information 重要なお知らせ

#### ■お知らせ

□次号 SMAnews 36号（10月～12月）は、12月25日頃発行予定です。

掲載希望のクラブは随意事務局へ申し込み下さい。

掲載責任者 木村明彦